右通知ス

年　月　日

廳　御中

廳

第十四編　雜

○休日ニ關スル件

（昭和二年三月四日勅令第二十五號）

左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
大正天皇祭	十二月二十五日
春季皇靈祭	春分日
秋季皇靈祭	秋分日

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○休暇ヲ定ムルノ件

（明治六年一月七日太政官布告第二號）

（沿革）明治六年太政官達第二二一號改正

自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄　十二月二十九日ヨリ三十一日迄

○服忌令

（明治七年十月十七日太政官布告第百八號）

服忌ノ儀追テ被仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩樣ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

（備考）舊幕府服忌令服忌令公案集成ノ内

高祖父母

一離別ノ高祖母定式ノ忌服受之

一養子實方ノ高祖父ハ五ニ忌服無之

父方　定式　忌十日　服三十日

一父ノ實母方高祖母ハ一日遠慮遠國ニテ承リ日數ヲ經過セシ時ハ遠慮ニ及ハス

母方　定式　一日遠慮

曾祖父母

一離別ノ曾祖母實繼有之トキハ祖母ノ例ニ同シ妾ノトキハ一日遠慮

一養子ハ實方忌服無之一日遠慮

父方　定式　忌二十日　服九十日
一父ノ實母方曾祖父母ハ一日遠慮遠國ニテ承リ日數經過セシ時ハ遠慮ニ及ハス
母方　定式　一日遠慮
祖父母
一離別ノ祖母忌服差別無之
一養子實方ハ半減父方ハ忌二十日服九十日母方ハ忌十日服三十日
一祖父母伯叔父姑ハ何樣入組タルモ半減ヨリ減スルコトナシ
一妾ニテモ祖母ハ忌服差別無之但妾ノ親類ニテハ祖母ノ忌服ハ受ケス
一祖母他ヘ嫁スルモ忌服差別ナシ
父方　定式　忌三十日　服百五十日
母方　定式　忌二十日　服九十日
一養子實母方ノ祖母妾ニテ他ヘ嫁スルモ實母方祖母卽チ半減ノ忌服十日三十日受之
父母　定式　忌五十日　服十三ケ月（閏月ヲカソヘ）
一養實トモ差別無之
一離別ノ母ニテモ互ニ定式ノ忌服受之但父ノ離別セシ實母ヲ離別ノ母ト云フ
一離別ノ母他ヘ再嫁スルモ定式ノ忌服ヲ受ケ其親類モ亦定式ノ忌服ヲ受ク
一妾腹ノ子父其母妾ヲ離別シ其妾他ニ再嫁スルモ定式ノ忌服ヲ受ク若シ其妾父ノ戸籍ニ入ラサル者モ亦同シ但妾ノ親類忌服無之
一嫡子庶子養女ノ差別無之
一父他ヨリ養子ニ來リ候節ハ父ニ於テ養方ノ忌服定式ノ忌服ヲ受クルニ付其子ニ於テモ父ノ養方ハ定式ノ忌服ヲ受ケ父ノ實方ハ祖父母伯叔父姑半減ノ事
一母他ノ養女ニテ父ヘ嫁シ來ルトキハ母ノ養方ハ定式ノ忌服ヲ受ケ實方ハ半減ノ忌服ヲ受ク
一養父死後養絕ノ養母生家ヘ復シ他ヘ嫁サヽレハ定式ノ忌服ヲ受ク但他ヘ嫁セシトキハ忌服無之
一養父死去婚姻未濟ノ養祖父ノ娘ハ養方叔母ノ續ナリ定式ノ忌服受之
一養父死後養母他ヘ嫁シタル時ハ其妻ハ家女ニテ其養母ハ妻ノ實母ナルモ忌服無之養母家女ニテ離緣ノ上養家ニ復歸セシ時ハ伯母甥相互ノ忌服ヲ受ク
一養父義嗣子ナナシタル後チ妻ヲ迎ヘタル時ハ其養嗣子ノ繼母ニ方ル而ルニ養父之ヲ養母ト定メタル時ハ養母定式ノ忌服受之
嫡母　定式　忌十日　服三十日
一嫡母トハ妾腹ノ子ヨリ父ノ正妻ヲ指スノ稱呼ナリ若シ本妻死去シ父後妻ヲ娶リタル時ハ本妻ノ子ニテモ妾腹ノ子ニテモ父ノ後妻ヲ繼母ト唱フ
一嫡母ノ親類ハ忌服無之
一父ノ先妻ハ父ノ後妻ノ子ヨリ父ノ先妻ト唱ヘ忌服無之但妾腹ノ子ハ父ノ後妻ヲ嫡母トシ定式ノ忌服受之父後妻ヲ娶リタル後生レタル子
一嫡母對面セサル時ハ忌服ヲ受ケス
一嫡母ヨリ妾腹ノ子ハ忌服無之
繼父母　定式　忌十日　服九十日
一繼父母ノ親類忌服無之
一父死後母ヘ後夫ヲ迎フル者之ヲ繼父ト稱シ母ノ連子ニシテ後夫ニ養ハルヽ者（養子ニアラス）又之ヲ繼父ト稱ス但母他ヘ再嫁スルモ其家ニ連越サレサル時ハ繼父ノ稱ナシ
一先妻ノ子父ノ後妻ヲ呼テ繼母ト云フ
夫　定式　忌三十日　服十三ケ月
一緣組スルモ婚儀未濟ナル時ハ忌服無之
夫ノ父母　定式　忌三十日　服百五十日
一夫ノ父母トハ舅姑ヲ云フ
一夫養子ニシテ其妻家女ナルトキハ夫ノ實父母忌服無之
一妻他女ニテ夫養子ナル時ハ夫ノ養父母ハ夫ノ父母定式ノ忌服ヲ受ク
夫ノ實父母ハ忌服無之
一夫養子ナルトキハ其妻ニ於テ夫實方ノ親類ハ總テ忌服無之
一夫妾腹ノ子ナルトキハ其妾死スルモ其妻ニ於テ忌服無之但入籍シタル者ナルトキハ姑同樣其妻忌服受之
妻　定式　忌二十日　忌九十日
一婚儀未濟ナル時ハ忌服無之結納爲取替タル時ハ二十日遠慮結納取替セサル時ハ遠慮ニ及ハス
一妻ハ初後トモ忌服差別無之
一妻姦罪ヲ犯シ討果シタル節忌服受クルニ及ハス
子
嫡子　定式　忌二十日　服九十日
一相續ヲ讓ルヘキモノヲ嫡子ト云フ故ニ嫡長子ニテモ其家ノ相續ヲ讓ラサル者ハ末子ノ忌服ヲ受ク養子次三男ニテモ相續人ニ相立チタルトキハ嫡子ノ忌服ヲ受ク嫡子ハ今云嗣子ナリ
末子并娘　定式　忌十日　服三十日
一末子養子ニ差遣候トモ末子同樣ノ忌服ヲ受ク
一娘人ノ養女ニナルトモ末子定式ノ忌服ヲ受ク
養子　定式　忌十日　服九十日但嗣子養子ノ例ニアラス
一養子實方ノ親類ハ父母ヲ除クノ外忌服半減
一父モ養子其身モ養子ナル時ハ父ノ實方忌服無之
養女　定式　忌十日　服三十日
一養女ハ入聟シ又ハ他ヘ嫁スルモ忌十日服三十日但入聟トハ養女ニ聟ヲ迎ヘテ嗣子トスル云
一養女入聟シ右聟其家ノ相續ニ立ツトキハ養父母ノ忌服ハ定式ノ通受之若シ唯養實ノミニテ入聟モナサス相續ニテ立サルトキハ養父母ノ忌服三十日百五十日之ヲ受ケ養方兄弟姉妹ハ互ニ半減其外ハ忌服無之實方親類ハ定式ノ忌服受之
伯叔父姑
一養子實方種替共半減ノ忌服受之

父方　定式　忌二十日　服九十日

一父養子父ノ實方伯父ハ半減ノ忌服甥ハ忌服受之

母方　定式　忌十日　服三十日

一離別ノ母ノ姉妹ナル伯叔母ハ通路ヲ爲ス爲サヽルニ關セス定式ノ忌服受之

一他人ノ養女ニテ父ニ嫁シタル母ノ異父兄弟ハ伯叔父半減ノ忌服

兄父姉妹　定式　忌二十日　服九十日　半減　忌五十日　服四十五日

一人ノ養子トナリタルトキハ實方兄弟姉妹相互ニ半減ノ忌服受之

一養女ニ成リ他ヘ嫁セシトキ實方半減ノ忌服ニテ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹ハ何樣入組タル養子ニナルモ半減ヨリ外忌服減スルコトナシ

一長男本家ノ養子トナリ實父他ヨリ養嗣子ヲ爲シタル時ハ實方弟ノ續トナリ兄弟相互ニ半減ノ忌服受之

一次男他ノ養子トナリ其實方兄(嗣子)死去實父モ死去シ一旦家斷絶ノ後他人其家名ヲ再興シタルトキハ其者ハ實方弟ノ續ニ相成リ半減ノ忌服受之

異父兄弟姉妹　定式　忌十日　服三十日　半減　忌五日　服十五日

一一腹別種之ヲ異父兄弟姉妹ヲ云フ

一後妻入嫁ノ節先夫ノ子ヲ連越其後後夫養子ヲ迎フトキハ其連子ト養子トハ異父兄弟姉妹ト見做スヘク但其連子ヲ後夫養子ト致シ置更ニ養子ヲ爲シタルトキハ養方兄弟姉妹ノ忌服ト同樣ニ有之

一實母父ノ妾ニテ他ヘ嫁シタル後出生ノ子ハ異父兄弟姉妹ノ稱呼無之

一異父兄弟姉妹ノ子ニテ伯叔父姑及甥姪ノ續アルモノハ半減ノ忌服受之親ノ異父兄弟姉妹ノ子ハ忌服無之

一後妻ノ連越シタル娘ト後妻其家ニ於テ出生ノ子トハ異父兄弟姉妹ノ定式ノ忌服受之後其子他ヘ養女ニ相成タル時ハ異父兄弟姉妹半減ノ忌服受之

娘ヘ聟養子ヲ爲シ子女出生後右養子死去更ニ他ヨリ右娘ヘ再聟養子ヲ爲シ出生ノ子トハ異父兄弟姉妹ノ續ニテ相互ニ十月三十日ノ忌服受之其一方ノ子ヨリハ伯叔父姑半減ノ忌服ヲ受ケ伯叔父姑ノ方ヨリハ甥姪半減ニテ二日四日ノ忌服ヲ受ク右甥他家ノ養子トナル時ハ忌服無之右姪他ノ養女トナルトキハ忌服差別無之他ノ養女トナリ入聟スルカ又ハ他ヘ嫁スルトキハ忌服無之而シテ其實父兄弟姉妹ノ子ト子ニ於ケル互ニ忌服無之

孫

嫡孫　定式　忌十日　服三十日

一嫡孫ハ嫡長男(嗣子)ノ子ナリ

一嫡孫他ヘ養子ニ遣ス時ハ忌服無之孫ノ方ヨリ實祖母半減ノ忌服受之

一養父死去嫡孫承祖ニナルトキハ養祖父母ハ五十日十三箇月ノ忌服受之

一養父死去嫡孫承祖ニナルモ養母ハ養母定式ノ忌服受之

一嫡孫承祖ノ妻祖父母ノ忌服ハ沙汰ニ不及

末孫　定式　忌三日　服七日　女孫　定式　同上

一他家相續ノ孫ハ忌服養之孫ヨリハ實方祖父母半減ノ忌服ヲ受ク

一養女ノ子ハ末孫ノ遂ノ忌服ヲ受ケ但養女一通リニテ養父ノ方ヨリ緣付タル養女ノ子并婚儀ニ付テノ養女ノ子ハ忌服無之

一次三男他家ノ養子トナリ出生ノ子ハ祖父母ニ於テ忌服無之孫ノ方ニテハ祖父母半減ノ忌服ヲ受ク

曾孫玄孫　定式　忌三日　服七日

一娘方曾孫玄孫トモ忌服ナシ

一嫡子ノ方曾孫玄孫長次三男ノ無別三日七日ノ忌服ヲ受ク

一養實トナルトキハ忌服無之　忌三日　服七日

從父兄弟姉妹　定式

一實方種替リトモ忌服無之

一從父兄弟姉妹トハ兄弟姉妹ノ子相呼テ唱フル稱ニテ其母方ヲ從母兄弟姉妹ト云フ何レモ從弟又ハ從弟女ノ事ナリ

一從弟ノ從弟女ト配偶シ而シテ離緣復歸セシ時ハ互ニ忌服無之

甥姪　定式　忌三日　服七日　半減　忌二日　服四日

一養子實方忌服無之

一異父兄姉妹ノ子ハ半減二日四日ノ忌服ヲ受ケ甥姪ヨリハ伯叔父姑半減ノ忌服ヲ受ク養實トナルトキハ甥姪忌服無之

七歲未滿

一父母三日遠慮日數ヲ經テ聞及ヒ候時ハ遠慮ニ不及

一七歲未滿ノ娘ニ婿養子ヲ爲シ養子死去婚姻未濟ノ者ハ養母ニ不相成伯母ノ忌服受之

一七歲未滿ノ子他ノ養子ニ相成死去候トモ實父母ハ三日遠慮兄弟姉妹甥姪共一日遠慮

一從弟七歲未滿ニテ死スルモ一日遠慮

一七歲未滿ノ者ノ親類死去シ八歲ニ相成右死去ノ趣聞込タル時父母ハ其聞込タル日ヨリ五十日十三箇月ノ忌服受之其他ノ親類ハ忌服日數殘餘アラハ殘日數忌服受之但遠慮ニ不及

聞喪

一遠國ニ於テ親類死去ヲ聞込タルヲ聞喪ト云ヒ父母ノ死ハ其聞込タル日ヨリ更ニ五十日十三箇月ヲ忌服ヲ受ケ其他ノ親類ノ忌服ハ聞込ミタル日ニ於テ未タ忌服ノ殘餘アラハ其殘ル日數ヲ受ケ已ニ忌日數相立タルトキハ其日一日遠慮

重忌服

一例ヘハ父ノ忌服明ケサル內母死スルトキハ之ヲ重ル忌服ト云然ル時ハ母死去ノ日ヨリ更ニ五十日十三個月ノ服忌ヲ受ケ父ノ忌服ノ殘餘ハ之ヲ受ケス一重キ忌服ノ內輕キ忌服ヲ受クルトキハ其重キ忌服中ニ輕キ忌服ノ日數終ルトキハ別ニ忌服ハ受クルニ及ハス例ヘハ父方祖母ノ忌服三十日百五十日ノ間ニ於テ從弟忌服三日七日ヲ受クルカ如キ類ヲ云フ但重キ忌服終ルモ輕キ忌服殘リテ日數殘餘アラハ其殘リ日數ヲ受クヘキハ勿論ナリトス

○年齡計算ニ關スル件

（明治三十五年十二月二日　法律第五十號）

年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第百四十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六條布告ハ之ヲ廢止ス

（參照）

○民法第百四十三條

期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ記算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿期日トス

○國旗ニ關スル件

（昭和五年十二月十五日　內閣書記官長ヨリ文部次官宛　內閣文甲第二〇號回答）

本年六月九日地文一〇號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ次第モ有之候處國旗ノ制式及揭揚方法等ニ關シテハ從來一般的準則ヲ欽キ從テ自ラ區々ニ渉リ將來何等カ準則創定ノ要ヲ被認候ヘ共差當リテハ明治三年太政官布告第五十七號、大正元年閣令第一號ニ則リ且ツ舊來ノ慣行ニ鑑ミ大體左記要綱ニ依ルヲ妥當ノ如ク思料セラレ候條御了承相成度此段不取敢及回答候

記

國旗ノ制式

一、國旗縱橫ノ比率及日章ノ直徑比率竝ニ其ノ旗面ニ於ケル位置ハ祝意ノ場合タルト弔意ノ場合タルトヲ問ハス何レモ明治三年太政官布告第五十七號ニ定ムル國旗寸法ノ比率ニ準據スルヲ妥當トスヘシ

二、竿頭ノ球ト旗トノ間隔ハ祝意ノ場合ニハ之ヲ絕對ニ存セズ、弔意ノ場合ニハ大正元年閣令第一號ニ準據シ竿球ハ黑布ヲ以テ之ヲ蔽ヒ且ツ旗ノ上部ニ黑布ヲ附ス

國旗揭揚ノ方法

一、國旗一旒揭揚ノ場合ハ門內ヨリ見テ右（門外ヨリ見テ左）ニ揭揚スルヲ望マシク已ムヲ得ザレバ左（門外ヨリ見テ右）ニ揭揚スルモ可ナルヘシ

二、國旗二旒揭揚ノ場合ハ併立、交叉隨意ナルヘキモ之ヲ一定セノトスシ、交叉スル場合ハ門內ヨリ見テ左（旗竿ノ本ハ右）ノ國旗ヲ內側トスルヲ可トスヘシ

三、特ニ外國ニ敬意ヲ表スル爲外國國旗ヲ國旗ト共ニ揭揚スル場合ニハ併立交叉隨意ナルヘキモ一定セントスル趣旨ヨリセバ交叉スルヲ望マシク時宜ニ依リ併立スルモ可ナルヘシ而シテ併立スル場合ハ國旗ヲ門內ヨリ見テ左（門外ヨリ見テ右）ニ揭ゲ、交叉スル場合ハ國旗ヲ門內ヨリ見テ左（旗竿ノ本ハ右）ニ揭ゲ旗竿ハ內側トスルヲ可トスヘシ

（參照）

明治三年五月二十七日
太政官布告第五十七號抄錄

（註）本布告ハ郵船及商船規則ニシテ明治二十三年法律第八十號ヲ以テ廢止セラレタルモノナルモ本則中ニ國旗制定ニ關スル件アリ爾後之ニ關シ制定セラレタルモノナキニヨリ便宜茲ニ抄錄シテ其ノ部分ヲ登載ス

郵船商船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

商船規則（本文略ス）

（別紙）

規則

一　御國旗之寸法別紙之通ニ候事

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝之節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日

正月　朔日　正月十五日　三月　三日
五月　五日　七月　七日　七月十五日
八月　朔日　九月　九日　九月二十二日
右之通

祝日可用分大旗之圖

凡而曲尺

68

昭和十二年七月五日印刷
昭和十二年七月七日發行

編纂者　啓文社編輯部

岐阜縣本巣郡北方町
發行兼印刷者　株式會社啓文社
右代表者　村田憲治

大阪市南區東賑町一八
印刷所　株式會社啓文社工場

發行所
岐阜縣本巣郡北方町
振替名古屋九四〇番
大阪市南區東賑町一八
振替大阪一九一七番
株式會社　啓文社

不許複製

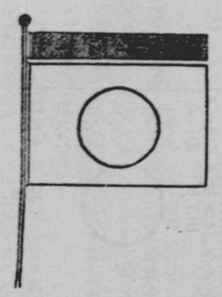
(ミミ3L68)

ミミ3L68
(奥付あり)

上卷（終）

第十回編輯

平常可用分
中旗寸法
流　一丈
竪　七尺
日ノ丸差渡四尺二寸
同先ノ明キ三尺
同乳ノ方明キ二尺八寸
風雨之節可用分
小旗寸法
流　六尺
竪　四尺二寸
日ノ丸差渡二尺五寸二分
同先ノ明キ一尺八寸
同乳ノ方明キ一尺六寸八分
日丸差渡
巾九尺一寸ノ五分ノ三
五尺四寸六分

大正元年七月三十日
閣令第一號

大喪中國旗ヲ掲揚スルトキハ竿球ハ黒布ヲ以テ之ヲ蔽ヒ且旗竿ノ上部ニ黒布ヲ附スヘシ其ノ圖式左ノ如シ